

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-2-1 健康づくりの推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

障がい福祉課長 平岡 昇

電話番号

0852-22-6256

| | | |
|---------|--|----------------------------------|
| 事務事業の名称 | 精神保健推進事業 | |
| 目的 | (1) 対象 | 様々な悩みを抱える精神障がい者及びその家族 |
| | (2) 意図 | 心の悩みを解決してもらい、必要な人に速やかに医療を受けてもらう。 |
| 事業概要 | ○専門的な相談・支援を行うため、在宅の精神障がい者及びその家族等に対して、精神科指定病院等と連携を密にしなが、必要に応じて医療及び保護につなげる。 ○本県の自殺死亡率を低減するために、島根県自殺対策総合計画に基づき、心の健康づくりに関与する機関や団体に対して、全県及び圏域の連絡会を設置して関係機関の連携強化と効果的な普及啓発を図る。 | |

2. 成果参考指標

| (1) 成果参考指標 | 指標名 | 自殺死亡率 | 年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 単位 |
|------------|-----|-------|------|----------------|--------|--------|--------|-------|----|
| | | | 式・定義 | 人口10万人当たりの自殺者数 | 目標値 | | 25.90 | 25.50 | |
| | | | 実績値 | 26.30 | 22.80 | 25.40 | 20.40 | | |
| | | | 達成率 | | 112.00 | 100.40 | 118.40 | | % |
| 指標名 | 年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 単位 | | |
| | 目標値 | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | | | |
| 式・定義 | 実績値 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | | | |
| | 達成率 | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | % | | |

3. 事業費

| | 26年度実績 | 27年度計画 |
|-------------|--------|--------|
| 事業費(b) (千円) | 45,856 | 46,482 |
| うち一般財源(千円) | 11,168 | 25,409 |

4. 改善策の実施状況

| | |
|---------------------|------------------------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む） |
|---------------------|------------------------|

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 県内自死者数
H21：221人→H22：184人→H23：186人→H24：160人→H25：177人→H26：141人
- 県内自殺死亡率（人口10万人当たり死亡者数）
H21：30.9→H22：25.8→H23：26.3→H24：22.8→H25：25.4→H26：20.4
- 全国順位
H21：4位→H22：11位→H23：6位→H24：12位→H25：4位→H26：14位

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・島根いのちの電話への支援やゲートキーパー等養成研修など島根県地域自殺対策緊急強化基金を活用した様々な取り組みなどにより、自死者数、自殺死亡率とも減少した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・目標は達成したが、自殺死亡率は全国平均より高く推移している。
- ・いのちの電話の相談件数は増えており、相談員が不足している。
- ・相談機関へつなぐゲートキーパーの育成が不十分である。
- ・国の基金を活用して、H21年度から島根県地域自殺対策緊急強化基金による事業を行っていたが、H26年度で基金事業が終了し、事業財源が減少した。（H27はH26国補正予算で措置された交付金と県の自主財源で事業実施）

②困っている状況が発生している「原因」

- ・自死の原因は多岐にわたっており、特定はできず、様々な社会条件に左右される。
- ・いのちの電話のボランティア相談員養成講座の終了者が少ない。
- ・当初はゲートキーパー養成のための基礎研修を中心に取り組んできた。
- ・これまで活用していた国の基金事業が終了した。

③原因を解消するための「課題」

- ・自死の原因分析等により実態を踏まえた効果的な事業を総合的に継続していく必要がある。
- ・いのちの電話の相談員養成講座を効果的に実施し、相談員を確保する必要がある。
- ・「つなぐ」ゲートキーパーを養成するため、スキルアップ研修を強化する必要がある。
- ・基金終了後の所要財源を確保し、島根県自殺対策総合計画に基づく事業を継続して実施していく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・いのちの電話の相談員養成講座の効果的な宣伝に取り組み、ボランティア相談員の増に努める。
- ・ゲートキーパーの養成研修を体系的に行えるよう整理し、基礎研修後、スキルアップ研修等を実施しているが、今後も効果的な研修が行えるよう、研修の充実に取り組む。
- ・自殺対策は中長期的な視点に立った粘り強い取り組みが重要であることから、今後も持続的な対策が実施できるよう国の財源措置を要望するとともに、自死の原因分析を踏まえた効果的な事業実施に取り組む。
- ・引き続き、保健所における心の健康相談等、悩みを抱える精神障がい者等に対する専門的な相談・支援を行い、必要に応じて適切な医療につなげる。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）